

目 次

1章	発掘調査に至る経過	1
2章	本陣の歴史	2
3章	発掘調査	5
	3-1 調査の概要	5
	3-2 調査日誌	6
	3-3 遺構	7
	3-4 遺物	9
	a 土器	9
	b 銭貨	13
	c 石鏃	15
4章	まとめ	17

挿 図	1 発掘調査位置図	2 島崎家絵図Ⅱ
	3 御料局庁舎・官舎 平面図	4 調査区と地区割り
	5 本陣跡現況	6 発掘作業風景
	7 発掘作業風景	8 発掘遺構図
	9 銭貨拓影	10 石鍬実測図

図 版	1 妻籠宿航空写真	2 妻籠宿全図
	3 A区発掘区	4 B区発掘区
	5 A区発掘区全景	6 A区発掘区東半部
	7 A区発掘区西半部	8 B区発掘区全景
	9 南Ⅰ区発掘区全景	10 南Ⅱ区発掘区全景
	11 石列 SX01	12 土壙 SK05
	13 A区出土遺物	14 A区黒褐土層出土遺物
	15 A区黒褐土層出土遺物	16 A区黒褐土層出土遺物
	17 A区表採・表土出土遺物	18 B区 SK05 出土遺物
	19 B区出土遺物	

例 言

- 1 この報告書は、妻籠宿本陣跡（長野県木曾郡南木曾町妻籠）における発掘調査に関するものである。
- 2 調査は、妻籠宿本陣跡地発掘調査団が担当した。顧問上野邦一（奈良国立文化財研究所）、団長伊深 智（大桑村野尻小学校教諭）、団員宇津野金彦（名古屋大学大学院）が参加した。発掘調査団事務局は島崎良弘（南木曾町教育長）、樋 盛親（南木曾町教育委員会社会教育係長）、遠山高志（南木曾町産業観光課観光係長）、原 秀樹（南木曾町産業観光課観光係）が担当した。
- 3 本書の執筆分担は、1章は南木曾町、2章、3章-1,2,3、4章は上野邦一、3章-4のうち土器は井上喜久男（愛知県陶磁資料館）、銭貨は岩永省三（奈良国立文化財研究所）、石鍬は松沢亜生（奈良国立文化財研究所）である。
- 4 本書の編集には上野邦一があたった。写真は遺構・遺物については担当者が撮影し、挿図・図版は八幡扶桑、佃 幹雄が担当し、松田佐由理が協力した。図面作成には、五十嵐久枝が協力した。
- 5 表紙は藤原宗三氏模写による中山道分間延絵図（原図 東京国立博物館所蔵）である。